

道徳学習指導略案【心と心のあく手】②

貝塚市立木島小学校 川崎雅也

- 1 学校・学年 小学校中学年
- 2 主題名 人間愛 2-(2)：相手のことを思いやり、進んで親切にする。
- 3 主題設定の理由
小学校中学年になると、人間関係の深さの違いや意見の相違などを乗り越えて、相手の立場に立って考えることが求められる。そのために、助け合って何かをするような機会を増やすことも重要なことである。
今回は、思いやりの心を持つことの大切さを深く考えられるよう、この主題を設定した。
- 4 ねらい おばさんのうれしそうな顔を見て変化したぼくの心を通して、相手のことを思いやり、
- 5 資料名 心と心のあく手（わたしたちの道徳） 進んで親切にする道徳的实践意欲を育む。

導入 2分	【生きる】を貼る		導入はこれだけ
展開 1 10分	資料の範読をする。 おさらいをする。 発問1： 「しばらく考えてから、そつと…」後ろをついていながらぼくは何を考えていましたか？	<ul style="list-style-type: none"> ・おばあさん大丈夫かな。いけるかな。 ・やっぱり声をかけようかな。 追発問：どうして、そつと後ろをついていったの？ ⇒バレたら困るから。心配だから。 *おばあさんに声をかけないのはどうして？ ⇒おばあさんの心の負担になると思ったから。	・おさらいは簡単に。 発問1： おばあさんのことを心配するべく。でもおばあさんの負担にはなりたくないと思うべくも押さえる
展開 2 15分	発問2： 中心発問 「ぼくは、むねをなでおろした」 ぼくは胸をなで下ろしながら、どんなことを考えていますか？ 補助発問1： 「だいぶ歩けるように…」と声をかけるむすめさんは、どんなことを思っていますか？ ⇒早くよくなってほしいな。 本当によく頑張るな。 これからもがんばってね。 私はずっと応援するからね。 おばあちゃん長生きしてね。 補助発問2： 「ぼくの心はぱっと明るく…」 どうしてぼくの心はぱっと明るくなったの？ ⇒おばあさんは嫌がっていたのではないことがわかったから声をかけないことがおばあさんには、やっぱりよいことであることがわかったから。	(1) 自分： 声をかけなくてよかった。 後ろをついてきてよかった。 ぼくにできることがあるんだ。 こんな風な手助けもあるんだな。 すごく心が温かくなったな。何かうれしい。 ぼくがやったことはこれでよかったんだ。 (2) おばあさん： がんばっているところを見せたかったんだな。 むすめさんも心配なのだな。 毎日努力している。すごい頑張り屋さんだ。 おばあさんもうれしんだな。 やっぱり自分でがんばりたかったんだな。 明日もがんばってほしいな。 すごくいい笑顔だな。 (3) おもいやり： 手助けするだけが思いやりではない。 いろいろな形の思いやりがあるんだな。 思いやりの心はいいな。 形ではなく心なんだな。 何かあったとき手助けする。それもいいなあ。 心の負担になる親切はあかん。	発問2： ぼくがむねをなでおろしながら考えたことを、じっくり児童と考える琴を通して、『親切』『思いやり』の意味を見相と一緒にじっくり考えたい。
終末 8分	・生きる⇒よりよく生きる ・感想を書く		感想はまとめ通信にする。

◆思いやり：

- ・他人の身の上や心情に心を配ること。また、その気持ち。
- ・相手の立場や気持ちを理解しようとする心。
- ・相手の気持ちを、自分のことのように感じることに。

補助発問3：

「本当の親切とは何か少しだけわかった」ぼくは何がわかったの？

↓

- ・しんどそう・でもしんどそうにもいろいろな意味があるということがわかった。
- ・親切のやり方にもいろいろあるということがわかった。
- ・手伝うことだけが親切でないということがわかった。
- ・手助けしないことの中にも親切な心があるということがわかった。

評価：相手のことを思いやり、進んで親切にする実践意欲が育まれたか？